

新教科書を 前編 斬る!

今年度より一足先に導入された小学校に続いて、2012年度より中学校教科書の全面改訂が行われます。「ゆとり教育」を旗印に行われた現行の学習指導要領の導入から10年。

OECD加盟国間で3年ごとに実施される学力調査 PISA において、日本は着々とランキングを下げてしまいました。特に「読解力」・「数学的リテラシー」・「科学的リテラシー」の3分野における凋落ぶりは目を覆いたくなるほどのものとなり、その対策を迫られた結果が今回の改訂に大きく影響していることは明らかです。「詰め込み教育」に対する批判や、落ちこぼれ・いじめ問題までを楯に、大幅な内容の削除を断行した前回の学習指導要領の導入とそれに伴う現行教科書への移行は、週5日制導入ありきの下に行われた改悪であったと言わざるを得ないでしょう。

今回の改訂では、前回大幅に削除された理数科目の内容がほぼ復活することをはじめ、各教科の教科書が大きく変わります。2002年度以前の内容に戻ることにとどまらず、各出版社が競って「発展内容」を織り込んでいるのです。これまでの指導要領が「上限規定」であったのに対して、新学習指導要領が「下限規定」となったことに起因するものです。つまり、今までは「ここまでしか教えない」というものだったのが、「最低ここまでやれば発展的内容は自由に扱って良い」という方針に大きく舵を切り替えたわけです。結果、新しい教科書のページ数は過去のどの改訂時よりも著しいページ数増となっています(右図参照)。



10年前の改訂時に新しい教科書を見て、「雑誌かカタログみたいだな」と思ったことを思い出しました。今回の改訂では、間違いなくそれは教科書であり、それも参考書のような教科書に仕上がっていると言えます。

教科ごとの変化について見ていくことにしましょう。まずは英語について。「話す・聞く」に偏重していた現行の指導要領から「聞く・話す・読む・書く、の4機能を総合的に行う学習活動の充実を図る」という大きな方針の変更があり、これによって文法的な説明にかなりの部分が割かれ、それに対する練習問題も大幅に増えています。また、いわゆるリーディング用のページも出版社によっては5割程度の増加があり、入試などで頻出となっている英問英答のパターンの問題も掲載されています。さらに、3年間で取り扱う単語が現行の900語から1200語へ増え、そこから派生するフレーズも時代を反映した「Cool!」なものとなっています。

数学は、「理数教育の充実」という文科省の方針変更を受けて、計算力の強化を狙っていることが伺えます。3年分の教科書合計で4~5割の練習問題数の増加ということもさることながら、その内容も難化しています。計算式の項の数が増えたり、計算結果が複雑なものになる問題が意図的に選択されています。計算問題以外でも、例題として扱われる問題が高校入試レベルといえる問題だったり、複雑な立体を取り扱ったりと、難化が顕著と言えるでしょう。「下限規定」の新学習指導要領の下で、こうした高度な内容をどこまで扱えるのか、中学校の先生方は悩みが付きにくいことと思います。「教科書内容にもついていけない」という生徒が続出しなことを祈るのみです。

国語の教科書は、今回の改訂で最もページ増分が多くなりました。常用漢字に新たに196字が追加されます。憂鬱(ゆううつ)・山麓(さんろく)・腎臓(じんぞう)・稽古(けいこ)なども学習するべき漢字として扱われます。その他、文学的文章の扱いについて、従来は鑑賞中心であったものを、説明的文章と同様に客観的に読みとらせるという指針も織り込まれています。また、文章要約なども課されますので、新年度からの各中学校の定期テストに少なからず影響が出ることでしょう。

社会は「地理」・「歴史」・「公民」という従来のスタイルを踏襲するものの、その内容は確実にボリュームアップしています。地理では、現行指導要領の目玉でもあった「調べ学習」に偏重した内容から一転し、世界地理・日本地理ともに諸地域をきちんと学習していく旧来の方針に回帰します。また、PISA型といわれる統計資料を読みとる力を問う問題も随所に見られ、他分野との融合などと合わせて、教科の中で重点化が図られることは必至です。特筆すべきは歴史において「世界史」が復活したことです。四大文明や産業革命など、覚えるべき事柄が大幅に増えています。生徒にとって確実に負担増となると考えられます。

理科は、今回の改訂で最も劇的な変化を見せます。まず、現行の「第1分野上・下」・「第2分野上・下」という3年間で4分冊であった教科書が、「中1理科」…と学年ごとの編集となります。また「ゆとり教育」の敵のような扱いを受け、前回の改訂で大幅に削減された内容がほとんど復活することになります。さらに、2006年のマイナーチェンジ等で追加された内容はそのまま残ることとなりますので、2002年以前と比べても内容は増えていることとなります。「理数教育の充実」の旗を掲げるだけあって、教科書の編集も本文以外の「発展内容」が豊富です。写真や図版を駆使して、興味をひこうという意図は十分に伝わってくるのですが、情報過多の傾向が否めず、必要なものとそうでないものをどう取捨するか、指導には頭を悩ませそうです。

各出版社の教科書はどれも単なる見かけのボリュームアップにとどまらず、内容的にも新学習指導要領のコンセプトを積極的に取り入れた意欲作と言えると思います。問題はそれをどう扱うかにあります。予想される問題点、また、S H O S H 1 Nではどう対応するのか。それらについては後編にて稿を認めたいと思います。(文責：榎原)

新年度のお知らせ

新

家族でアタック!

No. 1

新年度説明会

2012年度の授業の内容、教育方針などについてご説明いたします。ぜひご参加ください。

○中学受験新年度説明会 第 回 12月17日(土)

※時間は13:00~14:00になります。

		12			
17	12	4 () 6	1		3
		YT 4 5 2			
18		5YT ()	2		
19	12	2	3	6)	
20			22	4	
21				5	
22				6	
23				7	4 5
24		4 5 6	8		
		3			
25			9		1 2 5 6
26			10		2 13
27			11		
28			12		
29			13		
30			14		4 5 6
31		1/3	15		
			16		
			17	5	20